さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

第16号
発行日
2022年３月

発行　さがみはら生物多様性ネットワーク

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。
生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

会員募集中！！（詳細は裏面へ）

みてね！

生物多様性
動画第２弾

「外来種ってワルモノなの！?」
～相模原の生物多様性と外来種問題～

相模原市立博物館　学芸員　秋山　幸也

昨年度に引き続き、生物多様性に関する動画を作成しました。今回のテーマは生物多様性に迫る危機のひとつである「外来種」。

外来種問題で陥りやすい、「外来種は悪者」だから「排除せよ」という短絡的な考え方に対して、現在の自然環境において在来種や外来種がどのように生育・生息しているのかを冷静に考えるきっかけを作る内容です。また「外来種」とは、どういった地域の枠組みを前提にするかで、扱う生物が大きく変わってきます。さらに、生物多様性における外来種問題は、時間の流れを意識して考えることも重要です。こうしたことをわかりやすく伝えられるよう、相模原に生育・生息する具体的な生物を例に解説しています。

動画はこちらから▼

相模原　生物多様性　検索

https://youtu.be/CUCk9m-VfJM

あなたにもできる！

生物多様性を元気にしよう！②
～生き物が立ち寄る庭～

国連生物多様性の10年市民ネットワーク　代表　坂田　昌子

国連は2021～2030年を「国連生態系回復の10年」として集中的に取り組むことを決議しました。破壊された生態系の再生は、気候危機対策、食料安全保障、安全な水の供給など多面的な効果を生み出します。しかし、生態系の再生なんて専門家の仕事で、一般市民にはできないと考えている方が多いのではないでしょうか？実は、庭のあり方を少し変えるだけで、大きな推進力となるのです。分断されてしまった森、川、里を繋ぎなおす力を持っているのが庭なのです。

日本在来の虫や鳥たちは、それぞれの口に合うサイズの花や実の時期に合わせて成長するなど、在来の植物と共に進化してきました。しかし、最近の庭は、南アフリカ原産のアガパンサスや、一年中花をつける熱帯の花プルメリアなど、日本の生き物たちには用のないものばかり。その地域にもともとあった植物を植えれば、在来の鳥や昆虫たちが餌や棲みかとして利用してくれます。そんな庭があちこちに増えると生態系のネットワークが生まれます。

例えば、初夏に美しい白い花を鈴なりにつけるエゴノキの実は、ヤマガラの大好物。ガマズミを植えれば、初夏にはハナアブやハナムグリなどの昆虫が、秋には真っ赤になる実を求めて、ツグミ、カケス、ジョウビタキ、メジロ等が相次いで訪れます。ツバキは、品種改良された八重のものでは花粉も蜜も出ませんが、在来種のヤブツバキならば、寒い冬に鳥や虫に受粉してもらおうと大量の蜜を出します。メジロなどの鳥や、越冬中のタテハチョウやムラサキシジミ等がやってきます。ヤマハギ、ムラサキシキブ、リョウブ、ヤマボウシ、ミツバアケビ、ナツヅタ、ツルウメモドキ…相模原周辺の里山に本来ある植物を植えれば、生き物たちはちゃんと見つけてくれます。

生き物が立ち寄る庭は、都市生活で希薄になった季節感を呼び起こし、暮らしに彩りを与えてくれます。そして、あなたの庭の実を食べた渡り鳥が、森の奥で糞と共に種子を落とし、里山の生態系を再生してゆくのです。

マルバウツギとハナアブ

ツバキ

サカハチチョウ

会員活動紹介

～子どもの教育・観光振興・里山復活をめざす～

団体会員　昆虫文化を子供たちに伝える会

代表　三宅　潔（kabuto-mushi@jcom.zaq.ne.jp）

HPはこちら⇒

日本人は古来、虫と親しむ文化をもっています。子どもの頃の虫採り、飼育、標本作りなどの想い出は心に強く残り、その後の成長期の心の豊かさを育む大きな役割となっています。ゲームに熱中する子供たちを里山に連れ出し、カブトムシ採りの体験を通して、卵→幼虫→サナギ→成虫に変化するという自然の神秘、命の尊さを体験させる活動をしています。

春には、堆肥の中から自分で幼虫をゲットするイベントを主とした『昆虫文化フェスティバル』を開催し、秋から春にかけて、幼虫を提供してカブトムシの生態を教えるカブトムシ教室を開催しています。

令和３年７月には相模湖プレジャーフォレストの依頼を受け、観光を目的とした１泊２日の『リアル昆虫採集』ツアーを行うことに協力しました。都内など遠くから多くの観光客が集まり、里山での体験を大いに楽しみました。

これらの目的のために城山の畑を借りて、カブトムシの養育場所を作り、幼虫を飼育しています。そこに堆肥（椎茸屋からの廃原木＆廃菌床、法政大学馬術部からの廃棄オガクズ入り馬糞）を置くことで、周囲の雑木林からカブトムシが飛んで来て産卵します。しかし、年々、雑木林は荒廃し、その結果、イノシシが出没、ナラ枯れ被害も深刻です。

健全な里山雑木林を守るための下草刈りなどの手入れをする活動を通して、里山復活を願っています。また、幼稚園や小学校で堆肥箱を作り、カブトムシが育つお手伝いも始めています。

堆肥の中から幼虫をゲット

幼稚園でのカブトムシ箱
（相模原市南区）

会員交流会を開催しました

令和４年２月24日（木）に会員交流会を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催という初めての試みでしたが、12名の方にご参加いただきました。

「NPO法人相模原こもれび」と「NPO法人篠原の里」による事例発表では、各団体が作成した団体活動紹介動画を視聴し、会員からは、相模原にこんな素敵な場所があるとは知らなかったなどの声がありました。

後半は、自己紹介や意見交換を行いました。多くの会員から挙がったのが、団体の高齢化問題でした。非常に難しい問題ですが、中には、何年も前に交流を行った小学校の児童が大学生になり、活動に参加してくれるようになったというエピソードもあり、新規会員、特に若い会員の獲得は、長い目で見る必要があるのかもしれないとのことでした。画面越しではありましたが、活発な意見交換が行われ、今後の活動の参考になったことと思います。

さがみはら生物多様性ネットワーク×
相模川ふれあい科学館共同展示企画

「これも外来種！？もっと知ろう国内外来種」

相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら

さがみはら生物多様性ネットワークの取組みの紹介や国内外来種の展示を通して、生物多様性の大切さ、人と自然の関わりについて解説し、相模原市の自然環境の現状などを伝えることを目的とした企画が開催中です。ぜひご覧ください。

展示生物　カワムツ、イトモロコ
展示場所　生命ゾーン　マンスリー水槽横
展示期間　令和４年３月３日（木）～５月８日（日）
HP　https://sagamigawa-fureai.com/

会員募集中！！入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全に一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。

年会費…１口 1,000 円
個人・団体会員 /1 口以上　事業者会員 /2 口以上

ポータルサイト
https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/seibutsu/index.html

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
（相模原市水みどり環境課内）
住　所：相模原市中央区中央２－11－15
電　話：０４２－７６９－８２４２
Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp